

日本には在日朝鮮人の子どもたちが通う数多くの朝鮮学校があります。ここでは日本の植民地支配が終わった1945年以降ずっと民族教育が行われてきました。

さて、民族教育とはなんでしょう。そもそもなぜ朝鮮人が日本で暮らすようになったのでしょうか。日本や南北朝鮮の政府、あるいは周囲の人々は朝鮮学校をどのように扱ってきたのでしょうか。そしてなぜいまだに朝鮮学校は日本の教育制度の外に置かれているのでしょうか。

この学習会は東アジアの現代史という広い視点からこれらの問いに向き合い、同時に、日本の「戦後史」をまったく別の角度からとらえ直す機会になると思います。

在日朝鮮人の民族教育の歴史を学ぶことイコールこれからの日本社会のあり方について考えることです。この学習会をとおしてみんなで考え合ひましょう。

誰もが共に生きる埼玉をつくる学習会

主催

誰もが共に生きる埼玉を目指し、埼玉朝鮮学校への補助金支給を求める有志の会

<https://saitamakorenschool-hojokin-seimei.webnode.jp/>

朝鮮学校と日本社会を考える

第2回学習会

I 植民地主義と朝鮮学校

植民地期から在日本朝鮮人連盟(朝連)が解散させられた、1949年9月までを扱います。埼玉県下の民族教育、とくに1949年の「学校閉鎖令」当時の県下の朝鮮学校の状況にも触れます。

日時：2019年3月29日(金)
18:30~20:30(18:15受付開始)
会場：浦和コミュニティーセンター
9階 第15集会室

第2回・第3回共通

講師：鄭栄桓(ちよん・よんふあん)

明治学院大学教員。専門は朝鮮近現代史、在日朝鮮人史。著書に『朝鮮独立への隘路——在日朝鮮人の解放五年史』(法政大学出版社、2013年)他。

参加費：無料 会場アクセス：浦和駅東口徒歩1分
問い合わせ：tomoni.saitama@gmail.com

1回でも歓迎ですが、ご都合がつけばぜひ2回続けてご参加ください。

第3回学習会

II 冷戦下の朝鮮学校

1950年から、日韓会談の行われた1965年までを扱います。東アジアの冷戦構造は、在日朝鮮人の暮らしや民族教育に、どのような影響を与えたのでしょうか。

日時：2019年4月26日(金)
18:30~20:30(18:15受付開始)
会場：浦和コミュニティーセンター
10階 第13集会室



【参考写真】
深川朝連学院(1946年頃)。



今日の
埼玉朝鮮学校

※会の趣旨に反対する方、主催者判断にて会の進行を妨害する恐れのある方の入場をお断りします。